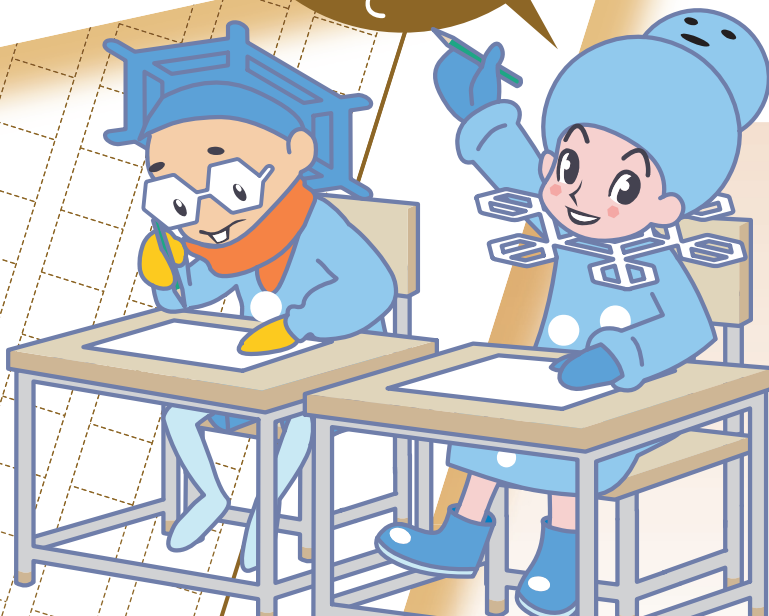
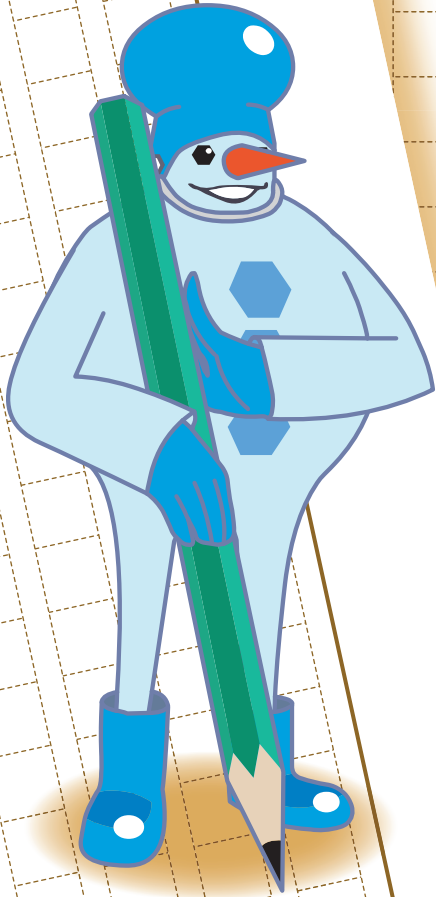


# 雪の随筆を書こう

随筆：経験したり、見聞きしたりしたことの  
中から、印象深いことを  
取り上げて、自分の考え  
をまとめたもの。

身近な雪や  
冬について  
随筆を書いて  
みよう



# 北海道の雪や冬に関する随筆を書こう！

みなさんは、冬と聞いて思い浮かぶことは何ですか。やはり、雪や寒いといった言葉が最初に思い浮かぶのではないのでしょうか。

北海道に住んでいるわたしたちにとって、雪や冬に関係する出来事は、大変身近なものです。

その中から、印象深い出来事を取り上げ、そのことについて経験したり、見聞したり、考えたりしたことなどをまとめて、自分なりの随筆を書いてみましょう。

## 活動の流れ

自分が体験してきたことや身の回りの出来事などから、雪や冬に関係することを思い出す。

その中から、随筆に書く題材を選ぶ。

体験や見聞した事実について、どのように感じたり、考えたりしたかを整理して、随筆を書く。

## 1 体験したことや見聞したことを振り返ってみよう

自分が住んでいる町の様子や、身の回りの出来事の中に、雪や冬に関係することはありませんか。今まで体験してきたことや、学習してきたことなどを振り返りながら、考えてみましょう。

- 社会科や理科、総合的な学習の時間などで、知ったり考えたりしたことから。

- テレビや新聞などで得た情報から。

- 実際の生活の中で体験したり、経験したりしたことから。

- 調べた熟語や言葉から。

大雪が降ると、家の雪かきの手伝いをするよ。

四年生の時に、除雪について勉強したよね。

理科で結晶っていう言葉について、本や辞書で調べたよ。



▼できるだけたくさんノートに書き出してみよう。

## 2 書くテーマを決めて、内容を考えよう

### ■ テーマを決める

- ノートに書き出した中から、強く印象に残っていること、書きたいと思ったことを選ぶ。

### △ テーマの例▽

- 雪まつりに行った時のこと
- 除雪について
- 大雪が降った日のこと
- スキーや雪遊びについて
- ホワイトイルミネーションを見に行った時のこと

その時の様子が、よくイメージできるテーマを選ぶといいよ。



最初の考えと最後にふり返って考えたことのちがいが書けるといいね。

随筆を書く前に、構成を表にすると考えを整理しやすいね。

### △ 構成表の例▽

■ テーマ	
① 体験した時の様子	雪かきについて ● 雪が重くて、運ぶのが大変。 ...
② 体験した時に考えたこと	「ありがとう。」と声をかけてもらってうれしかった。 ...
③ 今振り返って考えたこと	これから、できるかぎり雪かきをがんばろうと思った。 ...

## ■書く内容を考える

- 決めた体験や見聞について、その時のくわしい様子をノートに書く。
  - ・ 見たものの様子（大きさ・色・形など）や動き
  - ・ 聞こえた音や会話
  - ・ 自分や周りの人がしたこと
  - ・ その時に考えたこと、感じたこと
- など

## △書き方の例▽

### ■テーマ

雪かきについて

### ①体験した時の様子

- ・ 雪が重くて、運ぶのが大変。
  - ・ うでがだるくなってつらい。
  - ・ 家族のみんなも「うでが痛い。」「こしが痛い。」と言っている。
- ...

体験した時の様子は、できるだけくわしく書くと、読む人によく伝わるよね。



か条書きでたくさん書いてみると、随筆を書く時に書きやすいよ。



- その時に自分が感じたことや考えたことをノートに書く。

### △書き方の例▽

#### ② 体験した時に 考えたこと

- 手がだるくなつてつらいから、早くやめたかった。
- 機械で早く除雪してほしかった。
- 終わった後、「ありがとう。」と声をかけてもらつてうれしかった。

...

- そのことについて、今の自分はどのように考えているのかをノートに書く。

### △書き方の例▽

#### ③ 今振り返って 考えたこと

- 四年生の時に除雪の勉強をして、除雪をしている人たちの大変さ、一生けん命さを学んだ。
- 雪かきで文句ばかり言っていたことは、自分勝手だったと思う。
- これからは、自分でできるかぎり、雪かきをがんばろうと思った。

...

### 3 随筆の書き方を確かめよう

まず、タル君が書いた随筆を読んでみましょう。そして、どんな内容で、どんな工夫をして書いているかを確かめましょう。

ぼくは、雪かきのことについて書いたよ。最初は「やりたくないな。」  
とっていたんだけど、随筆を書くために四年生で勉強した除雪のこと  
について振り返ってみてからは、考えが変わったよ。



雪かきと除雪

タル

「札幌市の除雪は世界一なんだよ。」

四年生で札幌市の除雪について学習した時に、すごく心に残った言葉だ。

△タル君の工夫▽

読み手を引き付ける書き  
出しの工夫をしている。

排雪体積量や年間除雪予算など、札幌市が世界一という事がらがたくさんあった。流雪ここの延長きよりも世界一で、自分が住んでいる地域にも設置されている。この学習をした後、「札幌市に住んでいてよかったな。」と思ったのを覚えている。

しかし、四年生で学習するまでの自分は、除雪について深く考えたことはなかった。

雪が積もった日は、父や母に

「雪かきやるよ。」

と言われ、家の前の雪かきを手伝わされるが多かったが、いやでたまらなかった。とにかく重いし、量が多いのだ。最初のうちはまだいいが、スコップやスノーダンプで何度も重たい雪を運んでいると、うでも足もだんだんだるようになってくる。ペースが落ちてきて、最後の方は本当につらい。父や母は、

「こしが痛い。明日は筋肉痛だな。」

と、よく言っていた。自分は、雪かきをしている時、「もういやだな。もっと

以前に学習したこと、その時にどう思ったのかを書いている。

雪かきをしている時の様子や会話などを、具体的に書いている。



簡単にできたらいいのにな。」「除雪されるのおそいな。早く雪を運んでいてくれないかな。」などということをも、いつも思っていた。

しかし、今ふり返ってみると、何て自分勝手だったのだろうと思う。札幌市役所に寄せられた市民からの要望が一番多かったのが、「除雪」のことだったというのを思い出した。今までの自分もしてほしいことばかり言うだけで、自分から進んで何とかしようということはほとんどなかったと思う。

除雪の学習で学んだことは、他にもいろいろある。どんな順番で除雪をするのか、費用や人手は足りているのか、どれぐらい仕事をしているのか……。とにかく、実際に除雪をしている人たちは、ぼくたちのために、さまざまなおことに目を向け、一生けん命に取り組んでくれている。だからこそ、一年間に降る雪の量が約六mにもなる札幌でも、ぼくたちはふつうに生活しているのだ。もし、除雪がされなくなったら、大変なことになるだろう。

これからは、毎年除雪をしていてくれる方たちへの感謝の気持ちを忘れずに、雪かきに取り組んでいきたい。

自分の頭の中にかんたことを書いている。

知っていること、気付いたことを書いている。

今まで見聞したことや学んだことなどから、今の自分がどう考えているのかを書いている。

タル君の作文を読んでみて、どんな工夫をして書いているかを確認しましょう。

◎書き出しを工夫している。

△その他のいろいろな書き出しの工夫▽

- 会話や音などから書き始める。
- ・ シャーツ。しゃ面をすべる音が聞こえる。
- 思ったことから書き始める。
- ・ 「すげい。何てきれいなんだろう。」

△その他の書き出し例▽

- ・ あれは(一番の大雪)の時のことだった。
- ・ 今思えば、(小さいころはよく雪遊び)をしていたと思う。
- ・ それまでわたしは、(雪像は自衛隊の人)だけが作っている(と)思っていた。



◎その時の様子や会話、したことや聞いたことなどを、具体的にくわしく書いている。

◎「振り返って考えたこと」を、最後にまとめとして書いている。

△まとめ方の例▽

- 今振り返ると、くだと思う。
- 今は、くだと考えている。

◎体験した時の考えと今の自分の考えとの違いが書かれている。

## 4 随筆を書いてみよう

今までノートにまとめた内容を参考にしして、自分の随筆を書いてみましょう。また、前のページの書き方の工夫も確認しながら書きましょう。

ノートにまとめた事がらを  
どういう順序で書いていくの  
か、構成表を参考に考えよう。

内容ごとに段落を分けると  
分かりやすくなるね。

メモした内容が、全部書か  
れていなくてもいいよ。



事実と考えを区別して書く。

△体験したことなどの事実▽

- ・ ～をした。
- ・ ～ができた。
- ・ ～を見た。
- ・ ～だった。

など

△自分の考え▽

- ・ ～と思う。
- ・ ～と考える。

など

最後まで書けたら、まちがいがな  
いかどうか見直そうね。読む人に分かり  
やすい文章になっているかな。



## 5 随筆を読み合って、交流しよう

自分の随筆を書くことが出来たら、友達同士で読み合い、お互いにどんな内容で、どんな工夫をしているかをしっかり読み取りましょう。そして、感想を交流しましょう。同じような体験をしても、人によって見方や考え方が違うことに気が付くでしょう。

また、北海道の冬や雪について、新たなみ力が見つかるかもしれません。これからも、さまざまな学習を通して北海道の冬や雪について学び、自分が住んでいる町のよさを見つけていってほしいと思います。



### 北海道雪プロジェクト「雪のテキスト・シリーズ4」

2012年12月10日発行

教育現場で児童・生徒用にコピーしてご利用ください。それ以外の目的での無断転載・複製はできません。

企画・制作：杉原正樹 北海道雪プロジェクト

連絡 先：北海道教育大学札幌キャンパス内・北海道雪プロジェクト事務局（高橋）